

テーマ「スポーツを通じたまちづくり」



9月28日(水) 16:00~17:00
家庭バレーボール協会
参加者10人

Q. バレーボールは地域に密着しているスポーツ。年々チームが減少しており、コミュニケーションがとれなくなってきた。

A. 高齢者の集まりは多くあるが、皆さんのような世代の

集まりは町内でもあまりみかけない。大会などでもそれぞれのチームで、長年、がんばっていらっしやる方が多いように思う。

Q. 協会を通じてボランティアなどにも参加している。先輩方は、今後のお手本になる。

A. 昔からPTAなど地域で活躍されている方が多くいらっしやる。20代の方々は少ないですが

Q. 数えるほど。チームは15、6ある。今は仕事をしている人が多い。家庭、子育てもあるので自分の楽しみは後回しになる。新しい方は、幼稚園のサークルから入ってきているのが多い。

A. 幼稚園時代のお母さん同士のつながりは貴重だと思う。小学校以上になると顔を合わせる機会が少なくなる。

Q. 幼稚園時代のチームは若くて結束力も強いが、一人抜

けたりするとなくなっていく傾向。地区のチームもメンバーの入れ替わりがない。マンシヨンのチームは住人の入れ替わりがあり誘うのも難しい。

播磨町の体育館には、冷暖房設備や遊具施設など子どもが遊ぶ施設がない。ロビーのブレイクコーナーでは他の人の迷惑になるので、専用の場所があれば子どもを連れて練習に行ける。夏の熱中症対策として冷房をお願いしたい。

A. 大体育室規模の冷房は大変難しい。中体育室に冷房を設置してほしいと要望があり、今後予算協議する予定

Q. 使用している場所のみ点灯しているの、他の体育館と比べて照明が暗い。

A. 電力会社の要請で公共施設はかなり節電をしている。要望はスポーツクラブにも伝えておく

Q. 播磨小学校の体育館を区切る中央のネットを直すのは難しいか

A. 小規模のものなら学校の判断ですが、大きな改造や改修となると大規模改修時に対応していくことになる

Q. 体育館の耐震工事のときに一緒に修理をお願いしてい

た

A. 大規模改修のときに改善を検討するよう担当部署に伝えておく。子どもが中学生ということですが、中学校給食についてどう思われているか

Q. 娘は楽しみにしている

A. お弁当ではどうしても偏ってしまふ。給食なら食材や調理方法を知るいい機会となるのでは

Q. 中学校1年生と3年生では食べる量が違うと思う

A. 部活もしていると給食だけでは足りないの、おにぎりを持たせたいという声もあるが、業者によると食中毒があったとき原因の特定が難しくなるので避けてほしいとのこと。量については食缶方式にしているのでクラスで調整できると思っている

Q. お弁当でもいいと思っていたが、実際すごく楽になった

A. 今は単親家庭や共働き家庭が多くなり時代が変わった。お弁当が原因で不登校になることも。義務教育の間はどの子にも同じ昼食を行政として提供したい。自校方式は場所や費用、今後の生徒数の推移などがあり困難。試食をした

が自校方式と同じようにおいしかった。親の試食で理解が得られるなら、実施してもいいと思う

Q. 小学校では子どもが修学旅行に行っているときに試食できた。親が試食できれば、どんなものが提供されているのが確認できて安心する

A. 家庭で牛乳を飲まない子どももいる。給食で提供されていると3年間飲み続けるので将来大きく違うと思う。播磨町は住民生活に必要な施設や医療機関などが少い充実してきていると思う。理想をいえば、産婦人科などあればいいと思う。以前は子どもを産む世代に必要かと思っていたが、婦人科検診も動めていたのでどの世代にとっても必要だと感じる

Q. 稲美町にあるクリニクは予約も取れやすく、子宮がん検診と乳がん検診が同時に受けられてよかった。播磨町にそのような施設があるだけでも違うと思う

A. 若い世代が播磨町に住んで子育てしたいと思ってもらえるような環境整備をしていきたいと思っている

テーマ「ため池を通じた「コミュニティ」へ」



10月5日(水) 18:00~19:00
かがやきの北池コミュニティ
参加者12人

Q. 自治会長をしていて思うのが、住民の規範意識の低下。若い人には丁寧な説明が必要で、自治会長が意思決定することや自治会への広報配布料について疑問を持たれる。自治会というものを説明する冊子の配布が必要

A. 昔と比べるとコミュニケーションが希薄になってきている。播磨町も都市化してきて人と人とのつながりが薄れてきて

いる。この度の震災で地域のコミュニティが再認識されたと思う。町としても絆を深めるような方策に取り組みなければと考えている。広報配布料は自治会への支援にもなると思っている。播磨町に転入された人には、転入時に「自治会に入りましょう」というチラシを配っているの、自治会の中でも活用してもらえればと思う。また役員のおりなどを作ることも一緒に検討していきたい

Q. 7月の訓練は、自治会長だけだったが防災担当も一緒にあればよかった

A. 自主防災組織の連絡会を結成したい。防災の研修会を12月11日に中央公民館で行う。防災の役員にも声をかけている。防災の役員も参加してもらえばよかったが、7月の訓練は自治会連合会のものであった。自治会、コミセン単位でも実施することもできる。また、わくわく講座は、防災ほか様々な講座を開いているので活用していただきたい。自主防災としてコミセン単位

で情報交換できるように話を進めている

Q. 転入の際、自治会活動を具体的にPRする必要がある。役員になれば自治会の大切さがわかる。防災無線を有効活用するため、毎月1日を防災の日と呼び掛け、意識付けをすればどうか

A. 現在は防災行政無線で夕方に曲を流している。台風12号のときにも利用した。頻繁に使うと、いざというとき真剣に聞いてもらえないのではという懸念がある

Q. 防災の意識付けは必要であり、日を決めたら大丈夫なのでは

A. 多額の費用をかけて設置しており有効活用したい。担当グループと相談し検討する

Q. 北池の親水性を高めるため花を植えたかどうか。北池をウォーキングしている人がいるので一周何が表示するものがあれば親しみを持ってもらえる。犬の散歩でマナーの悪い人がいる。環境条例ができたので近隣の自治会も含めて北池辺りをモデル地区にできないか

A. 花がたくさんあるところは、環境としても好ましい。

町として花の苗を配ることなどは検討できると思う。要望書も出てきており、北池に街灯設置を予定している。犬の散歩については、モデル地区を試みる地域があってもいいと思う。地域の総意として提言してほしい

Q. 北池コミュニティのつながりであいさつを交わすようになった。それがコミュニティだと思つ

A. まず地域の絆づくりはあいさつだと思つ。これから一歩先行く取り組みを行っていただければありがたい

Q. 住民意識調査で播磨町の将来像として3位が「自然豊かな町」。ため池の周辺を交流する場所として散歩コースや釣りでもできればと思つ

A. 町にいる時間が長い世代ほど自然が大切だと感じると思つ。環境整備は町でも検討して実現させることは可能だが、その後どう生かすかは地域の力。具体的な提案があれば町として検討させていきたい

Q. 広場は避難場所になっているが雨降ったら水がたまる。芝生にしてほしい

A. 芝生は手入れが大変と聞

いている。グラウンドカバーのような自生するものが根付けばいいと思うが、持ち帰り検討する

Q. 水はけがよくないので、樹木が生長しない

A. 高木が育つ土壌ではない。緑化の推進として花なども考えられる。避難場所であることを踏まえて、具体的な提言があれば一緒に試みていきたい

Q. 北池広場の街灯はいいが、池周辺に多く設置すると生態系に影響が出るので地元の見をよく聞いてほしい

A. 現在、検討しているところ。街灯を設置するときは水利組合にも相談する

Q. もともと防災倉庫があるところに設置してほしいということだった。あまり明るくなって溜り場になっても困る

A. メリット・デメリットを検討して地域の人に喜んでもらえるような整備をしていきたい

※「かがやきの北池コミュニティ」北池周辺の4自治会と水利組合で構成され、ため池の保全活動に取り組んでいる団体。